

### 第3節 逸脱行動と友だちづきあいの満足度と不満

本節では、高校生たちの友だちづきあいの満足度（「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」の4肢選択）および友だちづきあいについての不満の内容を明らかにするとともに、そうした満足度や不満が、逸脱行動とどのように関わるかについて検討してみよう。

#### （1）男女別に見た友だちづきあいの満足度と不満

友だちづきあいの満足度を男女別に見たものが、図6-3である。交友については、男女とも差は見られず、85%を超える青少年が友だちづきあいに「満足している」と回答している。

また、友だちづきあいの不満について男女別に見たものが、表6-9である。不満の内容としては、「相手に気を遣わなければならない」「お互いの心を打ち明けて話すことができない」「好きでもないのに付き合わなければならない」などが多く、今日の青少年は、成熟した大人の職場での人間関係と同様、仲間外れにならないように、神経を使って人と接している面があることや付き合い方が受身で浅い面をもっていること、さらには付き合いが義務的で楽しいとは思っていない者もいることなどが分かる。そうした傾向は特に女子に強く、女子には「自分よりも他の人と仲良くする」といった嫉妬心を感じている者もやや多い。

図6-3 友だちづきあいの満足度(男女別) (%) N=2129

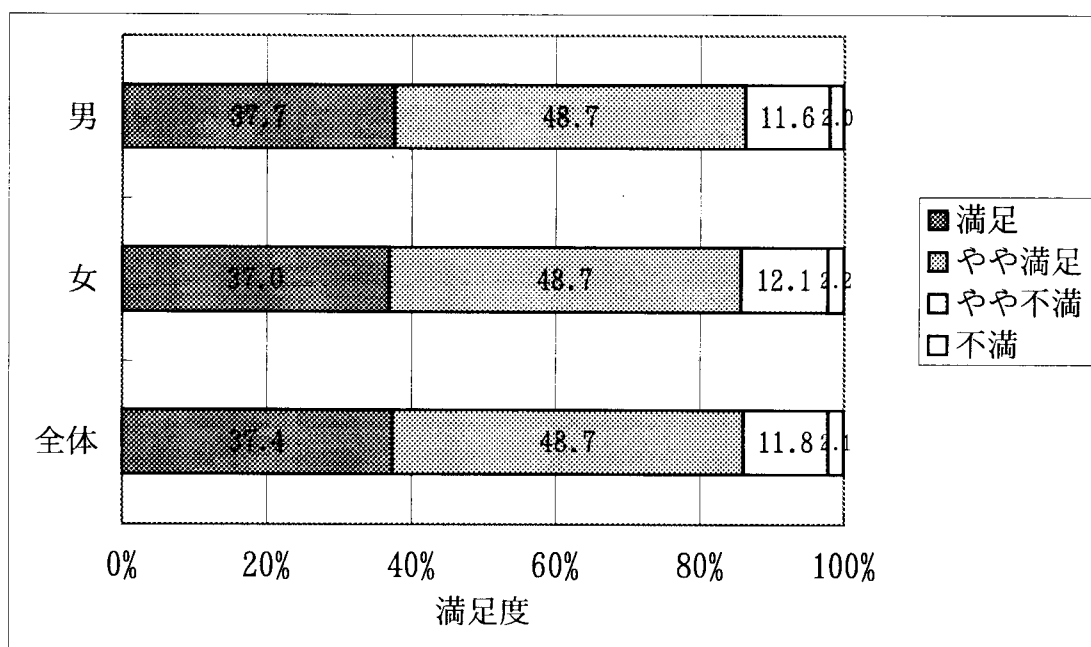


表 6-9 友だちづきあいの不満(男女別) 複数回答 (%) N=2048

	男	女	全体
気の合う友だちがいない	7.2	6.9	7.0
お互いの心を打ち明けて話すことができない	12.7	18.5	15.8
自分より他の人と仲良くする	4.6	9.8	7.3
仲間外れにされる	0.9	1.3	1.1
自分のことを分かってくれない	6.3	7.7	7.0
グループのまとまりが悪い	9.7	8.8	9.3
自分の言うことが通らない	6.6	5.1	5.8
相手に気を遣わなければならない	20.1	34.7	27.7
一緒にいても楽しくない	7.6	8.0	7.8
好きでもないのに付き合わなければならない	8.8	13.0	11.0
その他	4.4	4.9	4.6

(2) 大学進学率別に見た友だちづきあいの満足度と不満

友だちづきあいの満足度と大学進学率との比較を示したものが、図 6-4 である。どの群もほぼ 85%以上の満足度を示している。大学進学率が高い群ほど友だちづきあいに不満を持っている傾向が見られる。

また、友だちづきあいの不満と大学進学率との比較を示したものが、表 6-10 である。大学進学率が高い群は「お互いの心を打ち明けて話すことができない」「相手に気を遣わなければならない」の比率がやや高く、本音で付き合えないことへの心の葛藤が感じられる。

図 6-4 友だちづきあいの満足度(大学進学率別) (%) N=2133

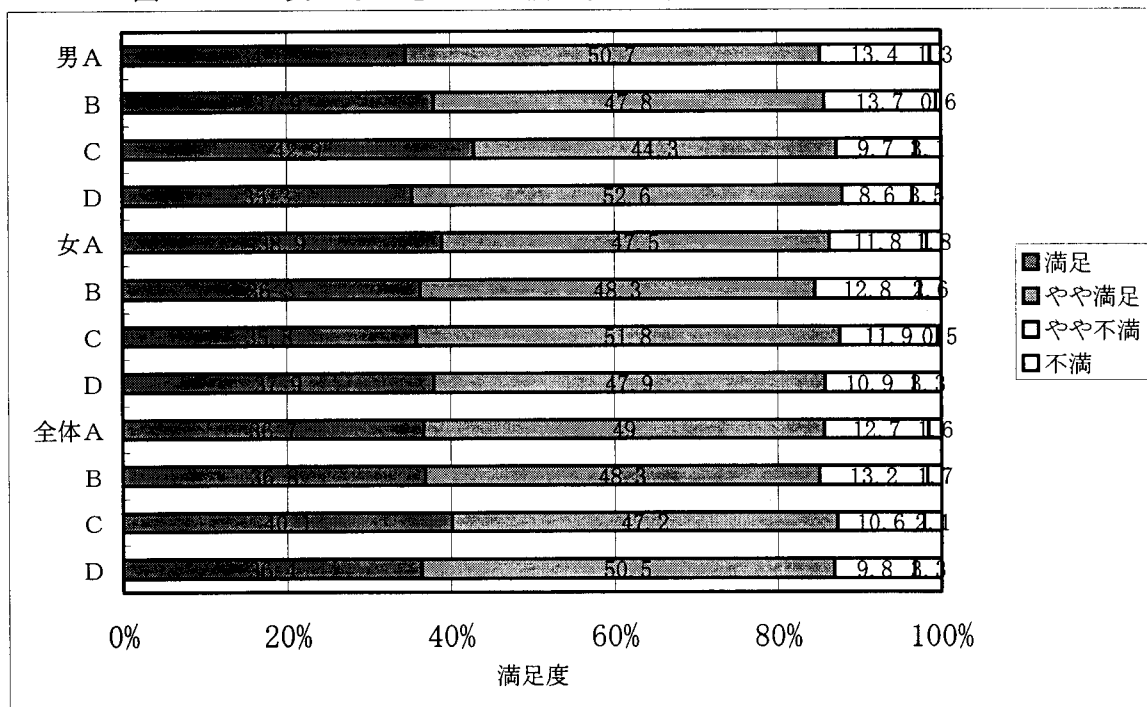


表 6-10 友だちづきあいの不満(大学進学率別) 複数回答 (%) N=2048

	男				女				全体			
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
気の合う友だちがいない	6.7	7.5	7.2	6.9	7.4	7.3	5.1	7.4	7.0	7.4	6.1	7.3
お互いの心を打ち明けて話すことができない	14.8	12.0	11.3	13.4	19.4	20.4	15.7	15.8	17.1	17.1	13.2	14.6
自分より他の人と仲良くする	5.3	4.4	3.2	5.6	5.6	11.1	12.2	8.9	5.4	8.3	7.3	7.3
仲間外れにされる	1.0	0.9	0.0	1.9	0.9	0.9	3.0	1.0	0.9	0.9	1.4	1.4
自分のことを分かってくれない	6.7	6.3	4.1	8.3	7.9	6.9	5.6	11.3	7.2	6.6	4.7	9.9
グループのまとまりが悪い	12.4	6.6	9.9	11.6	6.0	7.8	3.6	19.2	9.1	7.3	7.1	15.3
自分の言うことが通らない	4.8	5.3	10.8	6.0	2.8	5.3	5.1	6.9	3.7	5.3	8.0	6.4
相手に気を遣わなければならない	24.9	17.3	20.3	19.4	38.0	35.8	35.5	28.1	31.5	28.1	27.1	23.5
一緒にいても楽しくない	8.1	6.9	8.1	7.4	11.1	7.3	5.1	8.9	9.6	7.1	6.6	8.2
好きでもないのに付き合いなければならない	8.6	7.9	11.7	7.4	13.4	13.1	9.1	16.3	11.0	10.9	10.6	11.5
その他	3.8	5.7	2.7	4.6	6.0	4.0	3.0	7.4	4.9	4.7	2.8	5.9

(3) 学校立地別に見た友だちづきあいの満足度と不満

友だちづきあいの満足度を学校立地別に見たものが図6-5, 友だちづきあいの不満を学校立地別に見たものが、表6-11である。学校が都心にある群の男子はその他の地域に学校がある者よりもやや満足度が高い。さらに学校が都心に立地している群は、「グループのまとまりが悪い」「好きでもないのに付き合いなければならない」などの不満がやや高いことが窺われる。

図 6-5 友だちづきあいの満足度(学校立地別) (%) N=2129

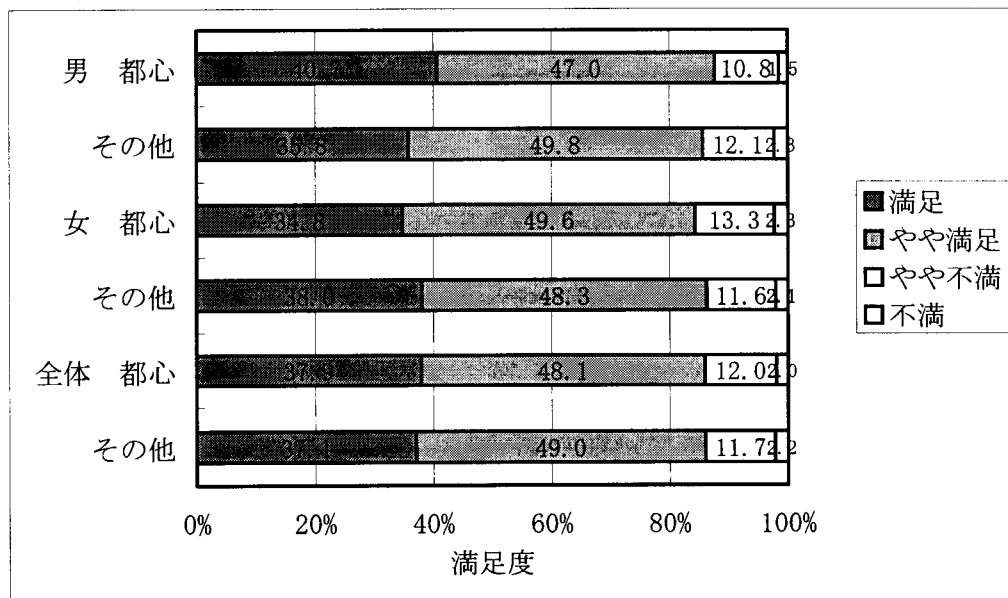


表 6 - 1 1 友だちづきあいの不満(学校立地別) 複数回答 (%) N=2048

	男		女		全体	
	都心	その他	都心	その他	都心	その他
気の合う友だちがいない	7.0	7.2	9.2	6.0	8.0	6.5
お互いの心を打ち明けて話すことができない	14.6	11.6	17.7	18.8	16.1	15.6
自分より他の人と仲良くする	3.2	5.4	9.5	9.9	6.2	7.8
仲間外れにされる	1.4	0.7	1.2	1.4	1.3	1.0
自分のことを分かってくれない	5.7	6.7	10.4	6.5	7.9	6.6
グループのまとまりが悪い	13.0	7.7	15.3	6.0	14.1	6.7
自分の言うことが通らない	5.7	7.2	5.2	5.0	5.4	6.0
相手に気を遣わなければならない	20.3	20.0	32.1	35.9	25.8	28.7
一緒にいても楽しくない	8.1	7.2	9.5	7.3	8.7	7.2
好きでもないのに付き合わなければならない	11.1	7.4	15.0	12.2	12.8	10.0
その他	5.1	3.9	7.0	3.9	5.9	3.9

(4) 逸脱行動度から見た友だちづきあいの満足度と不満

逸脱行動度別に友だちづきあいの満足度を見たものが、図 6 - 6 である。逸脱の程度に関係なく、どの群も 85% 前後の満足度を示している。また、逸脱行動度別に友だちづきあいの不満を見たものが、表 6 - 1 2 および図 6 - 7 である。

逸脱行動度の高い群には、「グループのまとまりが悪い」「好きでもないのに付き合わなければならない」「一緒にいても楽しくない」「気の合う友だちがいない」などの葛藤を感じている者が多い。つまり、友人関係が楽しみや連帯感を感じさせる源泉や拠りどころとなっているのではなく、義理的ないし義務的に集団に所属しているようなつきあい方をしている者が多いのではないかと思われる。一方、逸脱行動度の低い群には、「相手に気を遣わなければならない」ことに不満を持っている者がやや多いと言える。

図 6 - 6 友だちづきあいの満足度(逸脱行動度別) (%) N=2129

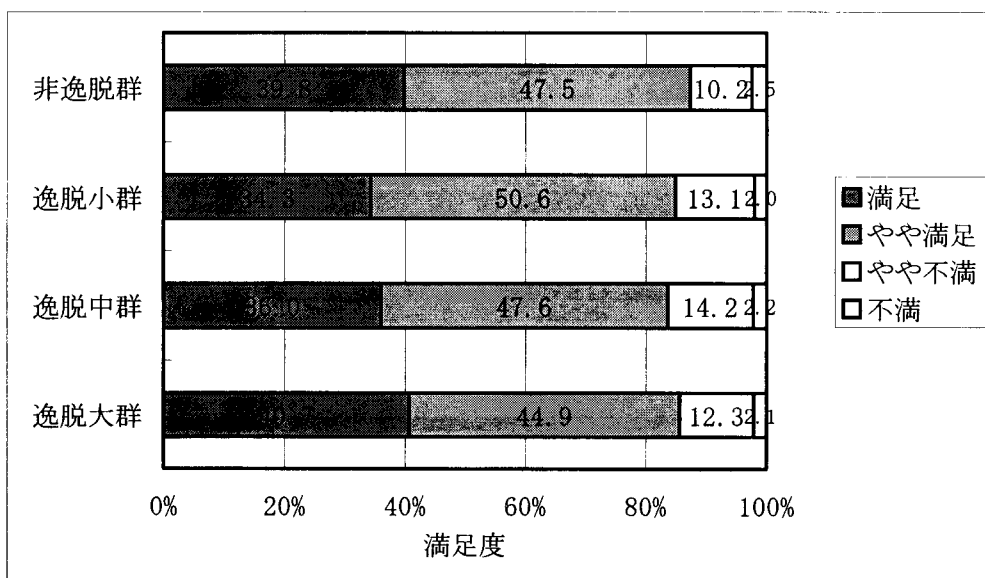


表6-12 友だちづきあいの不満(逸脱行動度比較) 複数回答 (%) N=2048

	非逸脱群	逸脱小群	逸脱中群	逸脱大群
気の合う友だちがいない	6.7	7.1	7.5	8.2
お互いの心を打ち明けて話すことができない	15.4	16.0	17.7	11.4
自分より他の人と仲良くする	6.3	9.3	8.2	4.1
仲間外れにされる	1.3	1.1	1.0	1.4
自分のことを分かってくれない	6.7	7.6	6.6	6.4
グループのまとまりが悪い	7.1	9.8	11.1	13.6
自分の言うことが通らない	5.6	5.7	6.2	5.0
相手に気を遣わなければならない	28.0	30.3	25.6	20.9
一緒にいても楽しくない	6.1	8.1	11.1	8.6
好きでもないのに付き合わなければならない	10.5	10.4	12.5	12.3
その他	4.7	4.5	3.9	5.5

図6-7 友だちづきあいの不満(逸脱行動度比較) 複数回答 (%) N=2048

